

No.157  
2019  
2/12



# はちおうじ

JR東労組  
八王子地本  
八王子地本  
ホームページ  
「東労組八王子」で検索



## 第45回定期中央委員会報告④

# 職場活動の重要性を発信！ 八王子地本 鯉江委員発言をかちとる!!

鯉江委員 (八王子)

今、会社施策がスピード感をもって進められています。生産性向上、効率化の行き着く先は鉄道業の安全につながる問題であり、労働組合の存在意義に関わる問題です。立川車掌区分会では要員問題を組合員と共に検証運動を担い、団体交渉や労働委員会、現在は個人訴訟へと運動を高めています。立川運転区分会では昨年、青梅線御嶽駅で場内信号機冒進事故が発生しました。ATS-P が動作したにも関わらず、冒進してしまった事象であり、同様の事象は1年前にも同箇所が発生していることから、分会は仲間と共に原因究明委員会などを繰り返し議論してきました。立川支部でも駐車場の退行運転の取り扱い変更について原因究明委員会を開催してきました。取り扱い変更に至った経緯は中央線で人身事故が発生し、上り電車を国立駅に退行させる際に、国立駅はJR中央ラインモールに業務移管がなされ運転取り扱いができないことから退行ができませんでした。これを契機に本社一支社で検討を重ねた結果「車掌による入換合図で退行を実施する」と変更しました。このことは鉄道の安全を崩壊させていく事態ではないでしょうか。そもそも、営業の職場の業務委託を実施する際に、運転取り扱いが出来ないことは当初より認識していたわけであり、この場合は管理駅で行うことを明確に定めていました。しかし、その体制が取れないから、指令が安全確認を行い、車掌と運転士が安全確認を行い退行させるというのは本末転倒です。施策実施で確認したことができないならば、JR 本体に戻るのが筋です。また、退行する場合には転てつ機を電氣的・機械的鎖錠という2つの方法を用いて安全を確認しています。これらも実施せずに行うのであれば営業職場での運転取り扱い者の必要性はなくなり、すべて外注化が可能になってしまいます。まさに何でもあり、その責任を現場労働に押し付けた、生産性の名のもとに行われた要員削減の結果です。利益至上主義が横行する状態が続けば、いつか大事故に繋がり私たちや乗客の命まで奪われてしまうと危惧します。でたらめな運用が行われていることに関して労働組合がモノを申していくことは当然です。共犯者になることなく、一つひとつ発生していることに対してチェック機能を果たさなければなりません。職場で発生するさまざまな問題は安全に繋がります。専従役員はぜひ職場に入って頂いて、実態を掴み取ることを要請します。

19春闘について若干触れますが、前段に言った通り職場からのたたかいが前提であり、春闘を春闘としてたたかうのではなく、たたかいをリンクさせ、3年連続の所定昇給額を算出基礎にさせないたたかいとして作りだしていきます。職場生産点での現役の労働者の良心をもって、12地本と一体となってたたかいをつくっていきます。

# 安全なき効率性の追求断固反対!! 労働組合のチェック機能を発揮し 鉄道の安全風土を創造しよう!